

第3回千歳市商業振興懇話会 開催結果

日 時 平成27年9月28日（月）午前10時15分から午前11時45分

場 所 千歳市社会福祉協議会 2階 会議室

出席者 委員10名、事務局ほか8名

議題等 1 報告事項（現行プランの評価、座談会、タスクフォース（簡略版）、分科会の結果報告）
2 その他

結 果 1、2の議事経過は次のとおり。

1 報告事項

次のような意見があった。

○イベントについて

- ・同じ日にイベントが開催されている例もあり、イベント数過多による集客の分散化や開催者側の疲弊などの課題がある。
- ・イベントを実施することが目的となっている場合があるので、実施手法については、個店への誘導を意識した工夫が必要である。
- ・せっかくイベントをやっているのに店が閉まっているなど、一過性で恒常的に商店街に足を踏み入れない状況にある。
- ・個店によってはイベントに割り当てる人員がない店もある。

○情報発信、交通

- ・SNSを活用した取組が若い人には有効ではないか。
- ・飛行機の機内誌で支笏湖の紹介が掲載されていたが、交通手段の記載がない例もあり、利用する側に立った情報発信が必要であると感じた。
- ・インターネットによる個店の情報発信は、行政や商議所が行う方法も考えられるが、いずれにしても個店の努力が必要である。
- ・バス路線について、現在見直しが行われていると聞いているが、利用者を増やすためには、利用者に対する利便性の向上、買い物客への帰りのバス賃負担等などの事業者との連携・企業努力の活用を検討してはどうか。
- ・利便性の向上については、バス停で待つ人が出ないようにする情報ツールを使った取組などが有効と考える。

○今後の方向性

- ・若い人からは体を動かす施設や、パフォーマンスを見てほしいという声が聞かれ、長時間居やすい場所へのニーズもうかがえる。若い人がまちに出てきて拠点となるような場所づくりが一つの機運となるように感じる。
- ・千歳は札幌に近くアクセスも良好で、大手百貨店やブランドを扱う店の商圈内であり、千歳の商業のあり方は市民が通常使うものがあればよい。ただ、千歳は国際空港を有しており、例としては外国人観光客が容易に両替できる場所、そのそばに日用品が揃う店があるというような、まちの特色を生かした展開をすれば中心街が再

生ずる道はまだあるのではないか。千歳の特徴をもう一度ひもといてまちづくりを考えてはどうか。

- ・子育て世代や高齢者への取組についてなど、他市における商店街の再生事例も参考となる。ハツキタ商店街は、札幌市西区の発寒中央駅を中心に広がっている商店街であり、かなりさびれたが危機感から長期計画を立て、利益ではなく地域のニーズに徹底的に応えることで活性化した例である。
- ・千歳近郊をテーマとしたテレビ番組は、飛行機の降下を間近で見られることや、支笏湖温泉、アジア人観光客にとっては冬が魅力であることなどを紹介しており、千歳の特徴を再認識する資料となる。
- ・注力する課題がなにかを整理し、総論の中に各論を組み込んでいければと思う。まずはここから取り組むことを考えていく必要があるのではないか。